

八田原ダムにおける防災操作による治水効果(令和5年7月8日~9日 梅雨前線による降雨)

速報

八田原ダム流域では、梅雨前線の影響により令和5年7月8日の朝から雨が降り始め、9日の昼過ぎにかけて雨が降り続き、降り始めから9日までの流域平均累加雨量は107.6mmを記録しました。

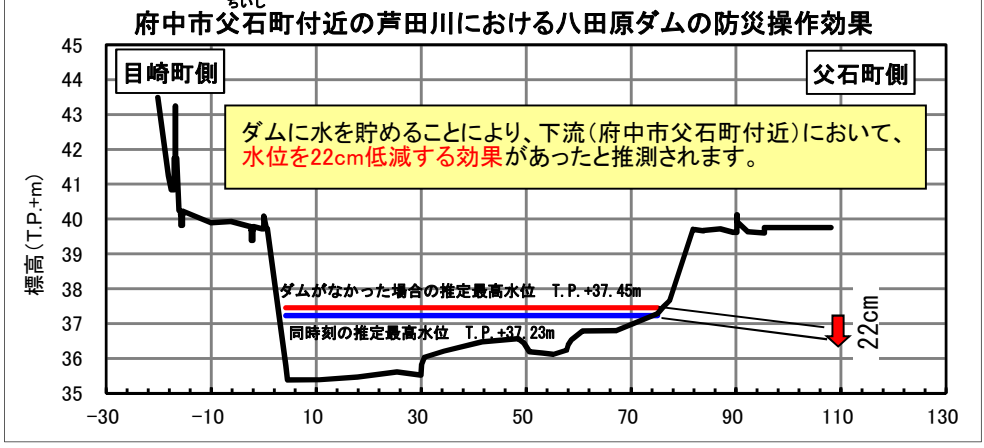
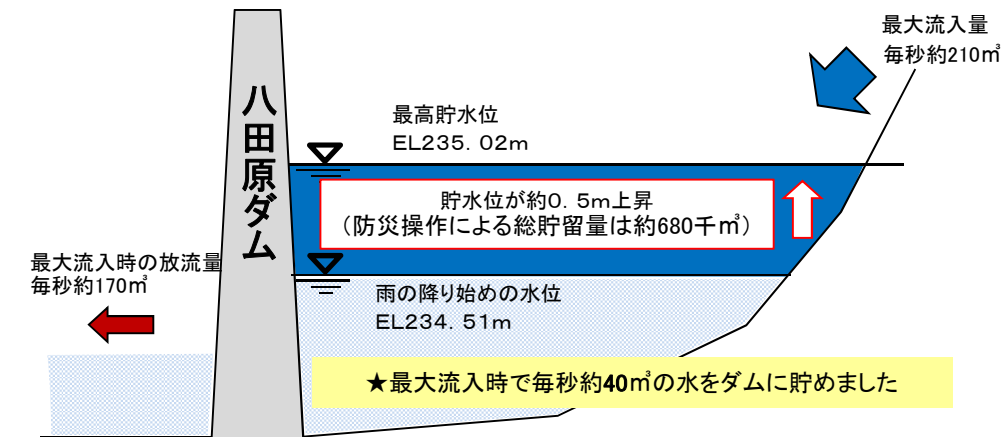
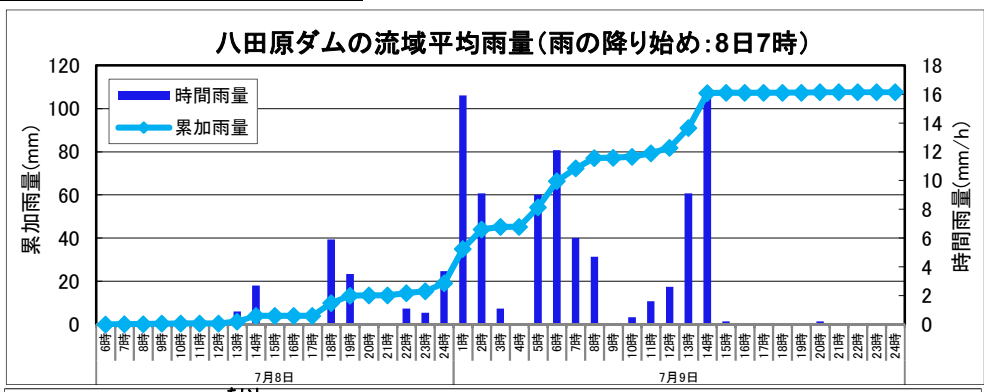
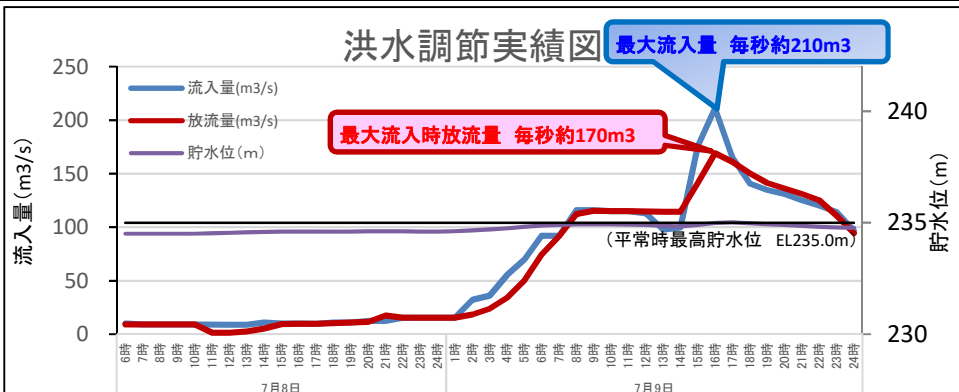
八田原ダムでは、ダムへ入ってきた水の量が最大で毎秒約210m³に達しました。

この洪水において、八田原ダムにおいては防災操作^{*}を行いました。このうち、最大流入時で毎秒約40m³の水をダムに貯め込みました。

この結果、府中市父石町付近の芦田川の水位を22cm低減する効果があったと推測されます。

^{*}『防災操作』とは、大雨などによりダムに流入する洪水の一部を貯水池に貯め込み、放流量を流入量より小さくしてダム下流の河川に流す操作です。

八田原ダム位置図



※各数値は速報値であり、今後、変わる可能性があります。